

## 【学習院の沿革】

### 弘化

弘化4. 3 (1847) 京都御所日ノ御門前に公家の教育機関として学習所開講する。

### 嘉永

嘉永2. 4 (1849) 孝明天皇より「学習院」の勅額下賜され、校名定まる。

### 明治

明治元. 3 (1868) 京都学習院の講義終り、4月に大学寮代と改められる。  
 9. 1 (1876) 華族学校設立の議おこる。  
 10. 6 (1877) 生徒130人を集めて華族学校の授業を始める(神田錦町)。開業式挙行、天皇・皇后親臨、勅諭・令旨を賜わる。あらためて「学習院」の勅額を下賜される。  
 10  
 17. 4 (1884) 宮内省所轄の官立学校となる。  
 18. 9 (1885) 官立の華族女学校を創設する(四谷区尾張町)。  
 21. 8 (1888) 学習院は麴町区三年町(虎ノ門)の工部大学校跡に移転する。  
 22. 4 (1889) 学習院輔仁会が発足する(明治23年『輔仁会雑誌』創刊)。華族女学校は麴町区永田町に移転する。  
 7  
 23. 9 (1890) 学習院は四谷区尾張町に移転する。  
 26. 10 (1893) 別科を大学科と改称する。  
 27. 4 (1894) 華族女学校に幼稚園を設ける(昭和19年保育休止)。  
 28. 11 (1895) 華族女学校の同窓会として常磐会が発足する。  
 38. 9 (1905) 大学科を廃止する。  
 39. 4 (1906) 華族女学校を学習院に併合し、学習院女学部とする。  
 41. 8 (1908) 中等学科と高等学科は北豊島郡高田村(目白)に移転する。  
 43. 4 (1910) 学生と卒業生らによって『白樺』が創刊される。  
 45. 7 (1912) 沼津游泳場を設置する。

### 大正

大正7. 8 (1918) 女学部は青山に移転する。  
 9 女学部は学習院と分離して女子学習院となる。  
 8. 9 (1919) 学習院の初等学科・中等学科・高等学科を初等科・中等

科・高等科に改める。  
 学習院の同窓会として桜友会が発足する。

10. 1 (1921)

## 昭和

- 昭和 3. 10 (1928) 学習院開校五十年記念式を挙げる。
10. 11 (1935) 女子学習院開校五十年記念式を挙げる。
20. 4 (1945)  
 5 空襲により目白校地を焼失する。  
 空襲により青山の女子学習院をほぼ全焼、四谷の初等科の一部を焼失する。  
 12 学習院学制・女子学習院学制を改め、一般の子女に門戸を開放する。
21. 4 (1946)  
 5 女子学習院は牛込区戸山町に移り、授業を始める。  
 中等科(1・2年)は北多摩郡小金井町に移転し、授業を始める。
22. 3 (1947)  
 4 学習院・女子学習院に関する官制廃止される。  
 財団法人学習院が発足し、学習院と女子学習院は私立学校として一体となる。  
 新制の初等科・中等科・女子中等科を開設し、初等科は男女共学を実施する。
23. 4 (1948)  
 5 新制の高等科・女子高等科を開設する。  
 学習院女子教養学園を開設する。
24. 4 (1949)  
 新制の学習院大学を開設する(文政学部=文学科・哲学科・政治学科、理学部=物理学科・化学科)。  
 中等科は戸山に移転する。
25. 3 (1950)  
 4 旧制高等科を廃止する。  
 戸山に学習院大学短期大学部を開設する(文学科)。  
 11 四大学運動競技大会が開始される。
26. 3 (1951)  
 4 学校法人学習院となる。  
 短期大学部に家庭生活科を増設する。  
 5 「学習院院歌」が発表される。
27. 3 (1952)  
 4 女子教養学園を廃止する。  
 大学文政学部を廃し、政経学部と文学部を設置する(政経学部=政治学科・経済学科、文学部=哲学科・文学科)。  
 5 学習院東洋文化研究所を設置する。  
 10 学習院蓁々会が発足する。
28. 4 (1953) 大学院人文科学研究科と自然科学研究科修士課程を設置

- する(人文科学研究科=哲学専攻・国文学専攻、自然科学研究科=物理学及び化学専攻)。
28. 4 (1953) 短期大学部文学科を文科と改称する。  
6 短期大学部を学習院女子短期大学と改称する。
31. 5 (1956) 学習院大学対甲南大学総合定期戦が開始される。
32. 4 (1957) 大学文学部文学科を国文学科・イギリス文学科・ドイツ文学科・フランス文学科に改組し、大学院人文科学研究科修士課程にイギリス文学専攻・ドイツ文学専攻・フランス文学専攻を増設する。  
8 中等科は目白に移転する。
35. 8 (1960) 目白校地が整備され大学中央教室(ピラミッド校舎)などが完成する。
36. 4 (1961) 大学文学部に史学科を増設する。  
大学院自然科学研究科博士課程を設置(物理学専攻・化学専攻)、同修士課程を物理学専攻・化学専攻に変更する。
38. 4 (1963) 学習院幼稚園を開園する。  
大学理学部に数学科を増設する。  
10 学習院創立八十五周年記念式典を挙げる。
39. 4 (1964) 大学法学部(法学科・政治学科)、経済学部(経済学科)を設置する。政経学部は翌年3月で廃止となる。
40. 4 (1965) 大学院人文科学研究科に史学専攻修士課程を増設する。  
大学院人文科学研究科に博士課程を設置する(哲学・史学・国文学・イギリス文学・ドイツ文学・フランス文学の各専攻)。
42. 4 (1967) 大学院自然科学研究科に数学専攻修士課程を増設する。
44. 4 (1969) 大学院自然科学研究科に数学専攻博士課程を増設する。  
女子短期大学文科を廃止して人文学科を設置する。  
11 学習院祭が中止され第0回大学祭が開催される(各校個別の開催)。
47. 4 (1972) 大学院法学研究科法律学専攻修士課程を設置する。
48. 7 (1973) 学習院八幡平松尾校舎を開設する(平成18年閉校)。
49. 4 (1974) 大学経済学部(経営学科)を増設する。  
6 大学計算機センターを設置する。
50. 2 (1975) 大学史料館を設置する。  
4 大学文学部に心理学科を増設する。  
大学文学部イギリス文学科を英米文学科と改称する。

53. 4 (1978) 大学院経営学研究科経営学専攻修士課程を設置する。
53. 10 (1978) 学習院創立百周年記念式典を挙げる。
54. 4 (1979) 大学院政治学研究科政治学専攻修士課程を設置する。  
大学院経済学研究科経済学専攻修士課程を設置する。
55. 4 (1980) 大学院人文科学研究科に心理学専攻修士課程を増設する。
56. 4 (1981) 大学院政治学研究科政治学専攻に博士課程を設置する。
57. 4 (1982) 大学院政治学研究科・人文科学研究科・自然科学研究科の修士課程・博士課程をそれぞれ博士前期課程・博士後期課程に変更する。  
大学院人文科学研究科に心理学専攻博士後期課程を増設する。
60. 11 (1985) 女子中・高等科創立100周年記念式典を挙げる。
61. 4 (1986) 大学院法学研究科・経営学研究科に博士後期課程を設置し、両研究科の修士課程を博士前期課程に変更する。

平成
----

- 平成 2. 4 (1990) 大学院経済学研究科に博士後期課程を設置し、同研究科の修士課程を博士前期課程に変更する。
3. 4 (1991) 大学文学部国文学科を日本語日本文学科と改称する。  
大学院人文科学研究科国文学専攻を日本語日本文学専攻と改称する。  
「オール学習院の集い」が開始される。
6. 4 (1994) 大学スポーツ・健康科学センターを設置する。
9. 4 (1997) 大学外国語教育研究センターを設置する。
10. 4 (1998) 女子短期大学を改組し学習院女子大学を開設する(国際文化交流学部=日本文化学科・国際コミュニケーション学科)。
11. 4 (1999) 学習院生涯学習センターを設置する。  
5 大学開学五十周年記念式典を挙げる。
13. 4 (2001) 学習院・学習院女子・日本女子・立教・早稲田の5大学単位互換制度(f-Campus)が始まる。  
5 女子短期大学を廃止する。
14. 12 (2002) 学習院創立百二十五周年記念式典を挙げる。
16. 4 (2004) 大学に専門職大学院として法務研究科(法科大学院)法務専攻を設置する。

- 女子大学に大学院国際文化交流研究科国際文化交流専攻修士課程を設置する。
17. 3 (2005) 大学院法学研究科法律学専攻博士前期課程を廃止する。
18. 4 (2006) 女子大学国際文化交流学部に英語コミュニケーション学科を増設する。
19. 4 (2007) 大学文学部ドイツ文学科・フランス文学科をそれぞれドイツ語圏文化学科・フランス語圏文化学科と改称する。
- 5 株式会社学習院蓁々会が設立される。
20. 4 (2008) 大学院人文科学研究科(博士前・後期課程)に美術史学専攻、アーカイブズ学専攻、身体表象文化学専攻を増設する。大学院自然科学研究科(博士前・後期課程)に生命科学専攻を増設する。
21. 4 (2009) 大学文学部英米文学科を英語英米文化学科と改称する。大学理学部に生命科学科を増設する。大学院人文科学研究科に臨床心理学専攻博士前期課程を増設する。大学院人文科学研究科イギリス文学専攻を英語英米文学専攻と改称する。
22. 4 (2010) 大学院人文科学研究科ドイツ文学専攻をドイツ語ドイツ文学専攻と改称する。学習院マネジメントスクールを生涯学習センターから独立させる。
23. 3 (2011) 女子中・高等科創立125周年記念式典を挙げる。
25. 4 (2013) 大学文学部に教育学科を増設する。女子大学に国際学研究所を設置する。
- 5 幼稚園再開園50周年記念式典を挙げる。
26. 4 (2014) 大学国際研究教育機構を設置する。
27. 4 (2015) 大学院人文科学研究科に臨床心理学専攻博士後期課程を増設する。大学院人文科学研究科に教育学専攻(博士前・後期課程)を増設する。
28. 4 (2016) 大学国際社会科学部(国際社会科学科)を設置する。大学院法学研究科法律学専攻博士前期課程を再設置する。
30. 4 (2018) 大学国際交流センターと大学国際研究教育機構を統合し、大学国際センターを設置する。
31. 3 (2019) 学習院マネジメントスクールを廃止する。

令和
----

- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| 6. 9 (2024) | 大学開学75周年式典を挙げる。      |
| 7. 3 (2025) | 霞会館記念学習院ミュージアムが開館する。 |

## 【学習院史一口知識】

※所在地の表記について

例：【戸山①】→戸山キャンパス図の①に所在

### 成り立ち・由来

#### ■学習院の創立と名称

弘化4（1847）年3月、京都に公家の教育機関として開講し、当初は学習所とも称したが、嘉永2（1849）年4月、孝明天皇より「学習院」の勅額が下賜されて正式名称となった。

この名称が論語冒頭の「学而時習之、不亦説乎」（学びて時にこれを習う、またよろこばしからずや）に基づくことは疑いないとされている。

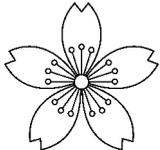
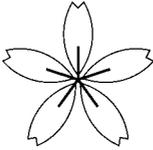
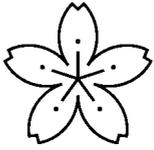
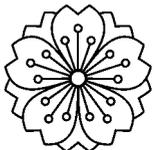
明治元（1868）年3月に講義を閉じたのち、改称や改編を経て明治3（1870）年7月、京都の学習院は終わりを告げた。

明治10（1877）年10月、神田錦町において華族学校開業式が行なわれ、明治天皇より校名を「学習院」と賜わり、次いで「学習院」の勅額が再び下賜された。ここに現在の学習院が創立された。

#### ■学習院の桜花の徽章と制服

桜花の徽章は本居宣長の「敷島の和大心を人間はゞ朝日に匂ふ山桜花」の歌の精神をとったもので、明治10（1877）年の創立当初より使用していた。

明治12（1879）年、渡辺洪基次長の立案によって海軍士官型の男子の制服が定められた。日本の学校で制服を定めたのは学習院が最初である。このときの帽子の徽章は花卉の丸味がやや大ぶりの桜花であったが、明治22（1889）年に改められ、更に平成3（1991）年、現在の桜章のように定められた。

院・中等科・高等科 初等科(男子)・幼稚園(男子)	大 学	女子大学	女子中・高等科 初等科(女子)・幼稚園(女子)
			

## ■学習院院歌の制定

学習院は明治10（1877）年の創立以来、院歌をもっていなかった。代わって明治天皇より賜わり奥好義が作曲した「修学習業歌」が、開院記念式等で歌われていた。また、華族女学校・女子学習院ともに校歌・院歌がなく、明治20年（1887）年3月に昭憲皇太后から下賜された御歌「金剛石 水は器」と、貞明皇后より大正12年（1923）年6月に下賜された御歌「はなすみれ」、昭和9（1934）年5月に下賜された御歌「月の桂」が歌われていた。

戦後、学習院の健全財政の展望が開けてきた昭和26（1951）年ごろ、第18代安倍能成院長のもとに多方面から院歌制定の要望があった。安倍院長は、学問を好み真理を熱愛し、謙虚にして反省に富み、進んで社会に奉仕し、困難に屈しない意力ある人物を養成したいとして自ら作詞した。信時潔が作曲を行い、昭和26年5月に「学習院院歌」が発表された。

一 もゆる火の火中に死にて また生るる不死鳥のごと  
 破れさびし廢墟の上に たちあがれ新学習院  
 二 花は咲き花はうつらふ 過ぎし世の光栄ふみしめて  
 まなかひに世界ををさめ 現実を生きてし抜かん  
 三 なげかめや昔を今と 荒波よ狂はば狂へ  
 黒雲よゆくてはとぎせ 我が胸は希望高鳴る  
 四 二つなく享けし我命 おのがじし育て鍛へて  
 もろともに世にぞ捧げん 常照らせ真理と平和

## ■背囊（ランドセル）の使用

学習院で生徒・児童の通学の際に背囊（ランドセル）を負わせるようになったのは、明治18（1885）年5月からで、学用品携行のために背囊を採用したのは、日本では学習院が最初であった。学校で使用を定める以前から背囊を負って通学していた生徒もあったようで、学習院では陸軍の背囊も参考にして正式に定めたと言われている。

## ■女子部の制服

女子の服装規定は、明治18（1885）年、華族女学校開業に先立ち「袴ヲ着シ靴ヲ穿クベシ、表衣ハ随意トス、袴ハ縞ヲ除クノ外、色目、地紋随意タルベシ、結髪ハ随意タリ、西洋服ニテモ苦シカラズ」のような服装の心得を示しており、あまり厳密でなかったようである。

その後、明治20（1887）年に洋服着用に限ると定められたり、明治22（1889）年には式日以外和服着袴可となるなどの変遷があった後、昭和12（1937）年の服装規程では現在の型のセーラー服が制服となった。

### ■『教学聖訓』

---

明治25（1892）年2月、第4代三浦梧樓院長は、明治4（1871）年以来華族あるいは学習院に賜った勅語、令旨および国民一般に賜った勅語、詔書のうち、教学に関するものを『教学聖訓』として編纂し、全教職員・学生に配布した。修身の教材としても使用された。女学部では明治44（1911）年から配布された。

### ■目白キャンパスの誕生

---

第7代近衛篤麿院長は、中等学科以上の校地として明治29（1896）年9月、北豊島郡高田村大字高田の現在地（目白）を選定した。工事が始まったのは明治39（1906）年7月で、明治41（1908）年8月に現在地に移転した（中等学科、高等学科）。平成20（2008）年8月で移転100年を迎えた。

### ■「女子部」の呼称

---

財団法人学習院発足とともに新しい職制がしかれ、昭和22（1947）年3月31日付で「女子高等科、女子中等科の教育を統括する」女子部長に三谷隆信が任命され、それ以降女子中等科・女子高等科を総称して「女子部」とすることが慣行となった。なお、昭和26（1951）年3月に女子部長は、廃止された。

### ■女子教養学園

---

女子の一般的な教養と家庭的技能とを合わせて高める目的で、昭和23（1948）年に開設された。富永惣一教授がその主宰となり、諸教授が講義をするほかに、手芸・服飾その他の専門家を講師に招いた。各種学校であるこの教養学園は好評で、昭和27（1952）年に閉鎖されるまでに多くの修了生を出し、学習院にとって経済的に寄与するところが大きかった。

### ■輔仁会の発足

---

創立当初より、学生の間には運動関係をはじめ多くの小団体があった。第4代三浦梧樓院長は学生全体を包括する組織の設立を勧め、その結果全学生の中心機関として明治22（1889）年に学習院輔仁会が創設された。会全体の行事として輔仁会大

会や陸上運動会が行われた。

会の名は『論語』（顔淵篇）の「君子以文会友、以友輔仁」（君子は文をもって友を会し、友をもって仁をたすく）より選んだものである。

### ■『輔仁会雑誌』

明治22（1889）年、輔仁会創立と同時に編集部・演説部・英語部・仏語部・独語部・運動部の6部が設けられ、編集部は翌23（1890）年6月、『輔仁会雑誌』を発刊した。当時、高等中学校の校友会雑誌は山口高等中学校（現在の山口大学経済学部の前身）の『学友』のみで、『輔仁会雑誌』は全国諸学校の校友会雑誌のうち最も古いものの一つとして、令和5（2023）年現在第246号を数えている。

## 建物・石碑

### 《目白キャンパス》

#### ■学習院正門【目白①】

以下①～⑦は、平成21（2009）年春、国登録有形文化財となった建造物

明治41（1908）年の目白移転の際につくられた。門標「学習院」の揮毫者は不明であるが、門標「学習院大学」は昭和35年度の大学卒業生が寄贈したもので、第18代安倍能成院長が揮毫した。



#### ■乃木館【目白②】

明治41（1908）年の目白移転を機に6棟の寄宿舎が建てられ、開寮と同時に第10代乃木希典院長は総寮部内の一室に起臥し、学生と寝食を共にしてその薫陶にあたった。同院長の逝去後、総寮部の一部を「乃木館」として保存し、昭和19（1944）年現在の場所に移築した。



### ■北別館【目白③】

明治42（1909）年に久留正道の設計により図書館として建設された。元々は煉瓦造の書庫を持つ比翼型の建物であったが、文学部棟（北二号館）の建設にともない昭和53（1978）年に片翼部が切り離されてL字型となり、現在の場所に移設された。



### ■東別館【目白④】

大正2（1913）年に皇族学生のための寮として建設された。山階宮武彦王、秩父宮雍仁親王をはじめとする皇族方が使用された。正面玄関の車寄せは、馬車を寄せることができるよう屋根が高くなっている。



### ■南一号館【目白⑤】

昭和2（1927）年に理科特別教場として建てられた建物。関東大震災の復興計画により、西一号館、昭和寮などとともに、鉄筋コンクリートで造られた。実験中に発生する有毒ガスなどを排気する出窓式の「ドラフトチャンバー」が設計当初から設けられていた。戦後は大学理学部研究棟として使用され、現在は教室棟に改修されている。

### ■西一号館【目白⑥】

昭和5（1930）年に中等科教場として建てられた建物。基本設計を担当したのは朝香宮邸（現東京都庭園美術館）などを手がけた宮内省内匠寮技師の権藤要吉。現在214教室として使用されている部屋にはストーブ置き場や照明器具が残り、当時の面影を偲ばせる。

### ■厩舎【目白⑦】

通路を挟んで左右両側に馬房を設ける大型の厩舎で、明治41（1908）年竣工。当初は目白通りの北側にあったが、関東大震災後の道路拡幅により昭和2（1927）年に現在の場所に移築された。



### ■中央教室（ピラミッド校舎）

昭和34（1959）年から始まった学習院第二次整備事業計画（創立八十五周年記念事業）の一環として、昭和35（1960）年8月、北一号館・南二号館とともに竣工。学習院のシンボルとして話題を呼んだ。学習院新聞社（のちの学習院大学新聞社）は100号を記念して中央教室のニックネームを募集し「ピラミッド教室」を採用し、のちに「ピラミッド校舎」の愛称で呼ばれるようになった。同校舎の場所に中央教育研究棟を建築することになったため、平成20（2008）年に解体された。現在、頭頂部が南一号館前に保存されている。



### ■血洗いの池【目白⑧】

湧水でできた池で、昔は灌漑に用いられ、水門があった。学習院の構内になってから、堀部安兵衛が血刀を洗ったという伝説ができ、「血洗いの池」と呼ばれるようになった。



### ■富士見台【目白⑨】

西一号館の南側は、江戸時代には「富士見台」と呼ばれた眺望のすぐれた場所の一つで、富士見茶屋があった。茶屋は珍々亭ともいい、その主人の与八は、俳名を玉川清風といった。多くの風流人がおとずれて四季とりどりの風景を賞讃した。

### ■芭蕉の句碑【目白⑩】

富士見台にあり、文化7（1810）年に雑司ヶ谷の俳人金子直徳が建てたもので、「目にかゝる時や殊更五月富士」の句が刻んである。



### ■青木義比の歌碑【目白⑪】

青木備後守義比は幕末の旗本。義比の死後、かれが好んで逍遙した富士見台に歌碑が建てられた。碑には、「夏月涼」「山家夏」の二首が刻まれている。



### ■御榊壇【目白⑫】

---

明治42（1909）年、明治天皇が目白の新校舎に行幸したことを記念するため、第10代乃木希典院長が翌年3月、周囲に石を巡らして築いた前方後円風の壇で、円壇の中央に天覧の榊が植えられた。円壇を囲む石の一部は、乃木院長が当時の日本の国境から集めたものである。



### ■出陣の碑【目白⑬】

---

昭和19（1944）年度高等科文科の卒業生が残したもので、死んで「目白ヶ丘の桜と咲かむ」という出陣学徒の合言葉を、第17代山梨勝之進院長の筆蹟により刻んである。

### ■道しるべ石【目白⑭】

---

雑司ヶ谷から落合・堀の内方面へ通じる道があった。東一号館北東の道路際に「是より左ぞうしがや／右ほりの内」、また旧位置から若干動かされたものの中等科・高等科本館前植え込みのなかに「右ぞうしがや／左ほりの内」の道標がある。

### ■鳩魂碑【目白⑮】

---

昭和13（1938）年、伝書鳩部員によって建てられたもの。伝書鳩部は昭和6（1931）年、陸軍からフランス製の大型移動鳩舎と約20羽の鳩が贈られたのを機に、伝書鳩研究会として発足した。昭和11（1936）年末、伝書鳩部と改称し、昭和16（1941）年9月に結成された学習院報国隊には鳩隊として参加した。昭和20（1945）年4月13日の空襲で鳩舎は焼失した。

### ■乃木号碑【目白⑯】

---

乃木号は、日露戦争での旅順開城の際、ロシア軍司令官ステッセルが水師管会見記念のため乃木希典大将に贈ったアラビヤ産の名馬寿号を父に持ち、明治44（1911）年に鳥取県の佐伯友文氏の牧場で生まれた。兄弟中で最も寿号に似ているところから、佐伯氏が乃木院長に寄付し、本院で育てられた。昭和12（1937）年27歳で天寿を全うするまで、永い一生を本院馬術のために捧げた功を称えて同年桜友会有志により、馬場の片隅に「乃木号碑」が建てられた。

### ■高円宮憲仁親王記念碑【目白⑰】

平成14（2002）年、スカッシュの最中に47歳の若さで亡くなられた同親王を偲んで、平成15（2003）年11月、輔仁会桜杖会・ホッケー部が建立したものの。親王はスポーツ好きで知られ、日本サッカー協会、日本ホッケー協会など数多くの競技団体の名誉総裁を務められた。碑の文字は犬養康彦氏による。

### ■「フェニックスの翼」像【目白⑱】

学習院創立125周年を記念して、平成16（2004）年3月26日に西五号館1階エントランスホールに設置されたもので、制作者は彫刻家で東京芸術大学名誉教授・澄川喜一氏。

## 《戸山キャンパス》

### ■学習院旧正門【戸山①】

鑄鉄製の門は、明治10（1877）年に学習院が神田錦町に開かれた時、正門として建てられた。

製作は埼玉県川口の鑄物工場で、唐草文様をあしらった和洋折衷の鉄門は、明治初年の文明開花時の様式と技術を伝えている。

神田錦町の校舎が明治19（1886）年に焼失した後、この門は学習院の所有を離れたが、卒業生有志の運動によって昭和5（1930）年に目白の本院構内に戻り、さらに昭和25（1950）年に戸山に移され、学習院大学短期大学部（のち学習院女子短期大学・学習院女子大学）および学習院女子中・高等科の正門となった。昭和48（1973）年6月、「学習院旧正門」として重要文化財に指定された。

その後明治通りの拡幅工事に伴う移設を機に、解体・補修が行われ、平成19（2007）年12月に設置が完了し現在の姿となった。



### ■「金剛石 水は器」の御歌碑【戸山②】

昭和10（1935）年に開校50年の記念事業の一つとして、青山の女子学習院に建立された。昭憲皇太后が明治20（1887）年に華族女学校に下賜された「金剛石 水は器」の御歌が刻まれている。昭和20（1945）年5月に青山校舎は空襲で被災し、昭和22（1947）年5月に焼け跡から戸山に移された。



### ■時報を告げた鐘【戸山③】

昭和22（1947）年、宮内省から学習院女子中・高等科に寄贈された鐘が、現在の図書館前植え込みの一隅に建てられた鐘楼に掲げられ、昭和27（1952）年まで戸山キャンパスの授業の開始・終了を告げていた。その後使用されなくなってもそのまま置かれていたが、昭和57（1982）年、図書館の新築とともに鐘楼は解体され、鐘は女子中・高等科内に保存された。さらにその後、平成20（2008）年10月20日から平成21（2009）年1月25日まで、本院卒業生・アーティストのオノ・ヨーコ氏による『BELL OF PEACE 平和の鐘』展において使用され、現在再び図書館前に設置されている。



### ■笠石【戸山④】

華族女学校が永田町にあったころ、門柱に乗せられた装飾で、青山移転とともに女子学習院の南通用門に移された。戦後、旧校地（現 秩父宮ラグビー場）に放置されたままになっていたが、昭和49（1974）年に至り戸山に移され、復元されて、現在は図書館前に置かれている。

## 《四谷キャンパス》

### ■初等科本館【四谷①】

昭和15（1940）年に建設された鉄筋コンクリート造2階一部3階建の校舎で、正堂および地下には防空室も設置された。温水パイプによる床下暖房設置やガラス黒板が備えられ、床には木製タイルが敷かれた。正堂には勅額の複製が掲げられて現在に至っている。

### ■「近光園」【四谷②】

初等科では、戦前から南の崖下にあった作業園、近光苑に加えて校地南端の弓場跡に学級園や相撲場を設け、児童の自然観察や遊戯の場としていた。

昭和34（1959）年に作業園、近光苑は売却され、さらに昭和36（1961）年、校地南端は高速道路用地になったため、高速道路に屋根をのせ盛り土した約1600㎡の土地を新たに「近光園」と命名し、昭和40（1965）、41（1966）年に整備して自然観察、遊戯の場ができた。



## 《その他》

### ■初等科旧正堂

---

明治32（1899）年7月竣工、式典などに使用されたが、一時女学部の幼稚園舎としても使われた。昭和12（1937）年に初等科校舎の改築に伴い、千葉県印旛郡遠山村尋常高等小学校（現 成田市立遠山中学校）に移築され、同校の講堂となった。昭和48（1973）年6月に国の重要文化財の指定を受け、現在は千葉県立房総のむら（千葉県印旛郡栄町）に保存されている。

### ■昭和寮

---

旧昭和寮は、昭和3（1928）年に旧制高等科学生の寄宿舎として、現在の新宿区下落合2丁目13番28号の敷地に建設された。西洋式建築の堅牢な建物であったが、昭和27（1952）年に売却され、現在は日立目白クラブとして残されている。同年、同じく下落合2丁目に大学学生のための寮を設け、それ以前の寮の名称をとり「昭和寮」とした。以後、当初から数えると70年近い歴史を刻み学生に親しまれてきたが、平成9（1997）年3月にその幕を閉じた。

### ■清明寮

---

昭和24（1949）年4月に中等科が小金井から戸山に移ったため、中等科の旧光雲寮を高等科生徒が使用することになり、この寮は第18代安倍能成院長によって改めて「清明寮」と名づけられた。

昭和26（1951）年4月、目白校地に皇太子明仁親王のための新寮が完成したのに先立ち、小金井の「清明寮」は閉鎖され、この皇太子寮にその名称が引き継がれた。皇太子御退寮後は義宮（常陸宮）正仁親王が、大学を卒業される昭和33（1958）年3月まで在寮された。

同年4月以降は中等科教員室や事務室などに使用し、昭和52（1977）年夏、中等科・高等科本館建設のため取り壊された。

### ■妙高高原寮

---

学生からの校外施設増設の要望に応え、卒業生からの寄付などによって新潟県妙高市池の平にあった旅館の別館を買い取り昭和38（1963）年に開設された。スキーやハイキング、学生のゼミ・部活動の合宿などに利用され、昭和62（1987）年には温泉を備えた鉄筋コンクリート造り地下1階・地上2階の建物に改築された。令和2

(2020)年9月に閉鎖され、57年の歴史に幕を下ろした。

### ■八幡平松尾校舎

昭和46(1971)年、岩手県松尾村(現八幡平市)から児玉幸多女子短期大学長を通じて、旧松尾鉦山の病院建物を無償で提供したいとの申し出があり、学習院八幡平寮(別寮)として使用が開始された。改修のうえ昭和48(1973)年7月に学習院八幡平松尾校舎と命名され開設式が行われた。初等科、中等科、高等科、女子中・高等科の校外教育や大学の課外活動、教職員の研修施設などに利用され、平成18(2006)年6月に閉校式が行われた。

### ■院長官舎

明治42(1909)年に作られ、第10代乃木希典院長時代には皇族寮に転用された。2階には会議室があり、職員会議や学生の集会にも使われた。昭和38(1963)年幼稚園建設の敷地を得るため愛知県犬山市の明治村に移された。

### ■華族女学校の遺蹟碑

華族女学校のあった永田町の校地跡(現 参議院議長公邸の通用門前)に昭和18(1943)年、常磐会によって建てられた。



### ■「学習院開校の地」碑

学習院は明治10(1877)年に神田錦町に創設されてから、平成14(2002)年10月に125年を迎えた。125周年の記念事業として、創立125周年記念式典の挙行、記念誌『学習院125年』の刊行に加え、開校の地である神田錦町に建立された。

碑の表面はシンプルに「学習院(華族学校)開校の地」のみで、裏面には学習院の沿革が刻まれている。



## イベント

### ■四大学運動競技大会の発足

学習院が新制大学の構想を模索し具体化していく段階で、武蔵高等学校・成蹊学

園・成城学園・学習院の4校がそれぞれ小規模の大学を設置し、学生の交流、教育・研究施設の相互利用などを行い特色ある総合大学とする東京連合大学が構想された。発案は天野貞祐学習院教授で、4校は7年制の旧制高等学校を母体として、それを新制大学に転換しようと苦慮していた。

連合大学構想は実現しなかったが、このことが機会となって四大学の親睦、交流等を目的とした運動競技大会の開催が決定され、昭和25（1950）年9月から四大学運動競技大会が始まった。

## ■附属戦

---

本院輔仁会運動関係各部の中等科選手と、東京高等師範学校（戦後東京教育大学、現筑波大学）附属中学校との定期戦は明治、大正以来の伝統的行事で、戦後初の附属戦は昭和21（1946）年秋に行なわれた。

昭和22（1947）年、23（1948）年の学制改革により、旧制中等科は新制中等科と新制高等科に二分され、高等科は昭和26（1951）年から、中等科は28（1953）年から総合定期戦として学校行事に組み込まれた。

昭和27（1952）年からは女子高等科と教育大附属高等学校女子との定期戦が始まり、昭和29（1954）年には、女子中等科と同附属中等学校女子との定期戦も始まった。昭和40（1965）年から高等科の附属戦は男女合同の附属戦となった。

中等科では昭和52（1977）年から、女子中等科では昭和54（1979）年から、各部ごとの対抗戦に改められた。

## ■学習院の游泳

---

学習院の游泳は明治13（1880）年8月、隅田川の両国の中洲で行ったのが始まりである。明治25（1892）年からは神奈川県片瀬の海浜で行われ、大正2（1913）年より前年新設の静岡県沼津游泳場で行われ、現在に及んでいる。女子学習院は昭和12（1937）年から沼津での臨海教育を開始し、現在も沼津臨海学校として女子中等科で行われている。

## ■おもちつき

---

幼稚園では昭和46（1971）年から毎年12月初旬に、日本相撲協会の力士を招き、園児とともに餅つきを行なうことが行事となった。

## ■学習院大学対甲南大学 運動競技総合定期戦（甲南戦）

---

昭和27（1952）年から陸上競技、野球など個々の定期戦が行なわれていた。

昭和31（1956）年になって両大学の総合定期戦が誕生し、現在まで続いている。

## ■オール学習院の集い

---

オール学習院の集いは、目白キャンパスの近隣地域住民、卒業生、在校生、父母保証人との親睦と交流の場として毎年開かれている。

昭和59（1984）年の春に近隣地域住民の花見散策のために実施した構内開放が恒例行事となり、その後開催規模も拡大し、平成3（1991）年からは「オール学習院の集い」と名称を改め、現在に至っている。

## 【校外施設】

### ●沼津游泳場

---

沼津市島郷の海岸、沼津御用邸記念公園に隣接する白砂青松の地23,000m<sup>2</sup>の林間に、14棟3,000m<sup>2</sup>、120名収容の游泳場がある。夏季には臨海教育施設として最大限に利用されるほか、年間を通して大学のゼミナール、ホームルームまたは運動・文化各部の合宿にも利用されている。

### ●日光・光徳小屋

---

日光国立公園戦場ヶ原の近くに19名収容の“山の家”日光・光徳小屋がある。原始林に囲まれた幽境9,000m<sup>2</sup>の用地にあって、約250m<sup>2</sup>の自炊設備の備わった2階建ての建物である。勉学の余暇、春夏秋の登山・ハイキング、奥日光の自然探究などに学生や卒業生が訪れている。（11月～4月は雪の為、山小屋閉鎖となる。）

### ●西田幾多郎博士記念館（寸心荘）

---

近代日本の代表的哲学者の1人、西田幾多郎博士は、かつて学習院教授であった。昭和51（1976）年秋、大学第1回卒業生である孫の西田幾久彦氏から博士の遺邸（鎌倉）が寄贈され、昭和52（1977）年学習院はこれを「学習院西田幾多郎博士記念館」と呼称し、教育研究の場として利用している。

# 目白キャンパス



- |                |               |
|----------------|---------------|
| ① 正門           | ⑧ 血洗いの池       |
| ② 乃木館          | ⑨ 富士見台        |
| ③ 北別館          | ⑩ 芭蕉の句碑       |
| ④ 東別館          | ⑪ 青木義比の歌碑     |
| ⑤ 南一号館         | ⑫ 御柙壇         |
| ⑥ 西一号館         | ⑬ 出陣の碑        |
| ⑦ 厩舎           | ⑭ 道しるべ石       |
| (①～⑦：国登録有形文化財) | ⑮ 鳩魂碑         |
|                | ⑯ 乃木号碑        |
|                | ⑰ 高円宮憲仁親王記念碑  |
|                | ⑱ 「フェニックスの翼」像 |

# 戸山キャンパス



# 四谷キャンパス

